

総合理工学インスティテュート

【2025 年度 大学評価総評】

I I S Tは母体となる情報科学研究科・理工学研究科の自己点検・評価結果を大学評価委員会として大学評価を行っている。総評は情報科学研究科と理工学研究科の内容と同じ。

【2025 年度 自己点検・評価結果】

I. 全学的な自己点検・評価結果より見出された重点的な評価項目

(1) 自由を生き抜く実践知を体現する取り組み

インスティテュートにおける「実践知」を体現する取り組みについて、改善・向上を図っていますか。 《対応する大学基準：教育課程及びその内容、教育方法について定期的に点検・評価し、改善・向上に向けて取り組んでいること。》 《対応する大学基準：社会連携・社会貢献活動の状況を定期的に点検・評価し、改善・向上に向けて取り組んでいること。》	S. さらに改善した又は新たに取り組んだ A. 概ね従来通りである又は特に問題ない B. 更なる改善が必要な点がある又は改善を困難とする要因がある。	A (概ね従来通りである又は特に問題ない)
上記項目について【SまたはB】と回答した場合は、その内容について記述してください。 Sの場合は、改善した取り組みや新たな取り組み、成果を記述してください。 Bの場合は、改善計画又は改善を困難とする要因について記述してください。		
《 内容 》		

(2) 学生の声を活かした取り組み

インスティテュートレベルにおいて、学生の声を活かした改善・向上を図っていますか。 《対応する大学基準：教育課程及びその内容、教育方法について定期的に点検・評価し、改善・向上に向けて取り組んでいること。》	S. さらに改善した又は新たに取り組んだ A. 概ね従来通りである又は特に問題ない B. 更なる改善が必要な点がある又は改善を困難とする要因がある。	A (概ね従来通りである又は特に問題ない)
上記項目について【SまたはB】と回答した場合は、その内容について記述してください。 Sの場合は、改善した取り組みや新たな取り組み、成果を記述してください。 Bの場合は、改善計画又は改善を困難とする要因について記述してください。		
《 内容 》		
授業レベルにおいて、学生の声を活かした改善・向上を図っていますか。 《対応する大学基準：教育課程及びその内容、教育方法について定期的に点検・評価し、改善・向上に向けて取り組んでいること。》	S. さらに改善した又は新たに取り組んだ A. 概ね従来通りである又は特に問題ない B. 更なる改善が必要な点がある又は改善を困難とする要因がある。	A (概ね従来通りである又は特に問題ない)
上記項目について【SまたはB】と回答した場合は、その内容について記述してください。 Sの場合は、改善した取り組みや新たな取り組み、成果を記述してください。 Bの場合は、改善計画又は改善を困難とする要因について記述してください。		
《 内容 》		

III. 2024 年度中期目標・年度目標達成状況報告書

評価基準	教育課程・学習成果【教育課程・教育内容に関すること】
中期目標	既存の6つの横断的学びのフィールド(Global Information Systems, Ubiquitous Network and Communication Systems, Global Business Analysis and Planning, Media and Information Processing, Medical and Health Care System Design, Advanced Bioscience and Chemical Engineering)を見直し、留学生から学びの需要の高い内容を反映させたフィールドを明示的に設けるなど、再編を行う。
年度目標	AI技術は、既存の6つの横断的学びのフィールドの共通の基盤となっている。2024年のIIST在籍学生を対象にした調査とその学生の予想される研究に関する調査を実

		施し、人工知能関連のコースを強化する。オンライン／オフラインのセミナーやワークショップを開催し、新しい研究分野をカバーしてさらなる展開を図る。
達成指標		関連する調査、セミナー、ワークショップ等の開催状況
年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	S
	理由	データサイエンス・AI 分野における留学生のニーズに応えるために、グローバルに活躍する関連研究者を各国から招く IIST Special Seminar を 4 回(春学期 1 回、秋学期 3 回)開催した。 「大規模言語モデルを用いた生成型 AI」を新規に開講した。
	改善策	—
評価基準	教育課程・学習成果【教育方法に関すること】	
中期目標	IIST に認められた増コマを有効に活用し、英語科目を充実させる。	
年度目標	各フィールド設置科目の体系化を検討する。特に、フィールド横断的 AI テクノロジーの英語科目の充実を図り、学生への周知を徹底する。	
達成指標	英語科目の実施数、AI 関連科目の数	
年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	A
	理由	英語科目は教員の退職により、前年度より 2 科目減り、合計 95 科目となったが、安定的に英語科目を開講することができている。
	改善策	新規開講科目の担当教員に英語での実施を依頼する。
評価基準	教育課程・学習成果【学習成果に関すること】	
中期目標	学習成果を学術論文出版、国際会議研究発表などを通じて示す。	
年度目標	IIST 学生の発表論文リストを継続的に作成し、学修成果を評価する。また、学会で受賞した IIST 学生の情報は、適切な時期に IIST のウェブサイトに掲載する。	
達成指標	ジャーナル論文・査読付き国際会議発表件数、学会での受賞数	
年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	A
	理由	従来に続き研究発表論文数を調査し、修了生及び在学生の公表論文数 22 件、うちジャーナル 5 件、学会表彰 4 件など高水準で、さらなる研究活発化が進展していることを確認した。修了生のコンペティション 1 位や教員の受賞についても、ウェブサイトに掲載し、積極的に広報活動を行うことができている。
	改善策	さらなる充実を図る。
評価基準	学生の受け入れ	
中期目標	研究能力レベルの高い学生を受け入れると共に定員を恒常的に確保する。	
年度目標	IIST プログラムをより広く宣伝するために、IIST のウェブサイトを実践させるとともに、海外の大学を訪問する。事前マッチングと面接を通じて、優秀な学生を確保する。	
達成指標	定員充足率、入学後の研究成果	
年度末	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	S
	理由	募集定員 15 名に対し、入学者が 25 名となり、充足率 167%を達成し、修士課程から博士後期課程に内部進学する学生が 1 名入学した。また、上記研究成果発表状況に見られるように、継続して質の高い学生を確保できている。

報告		優秀な学生の確保のため、オンライン説明会に参加するなど、積極的な広報活動も継続している。
	改善策	—
評価基準		教員・教員組織
中期目標		英語による講義・研究指導を担う教員の割合を増やす。
年度目標		IIST 教員と任期付教員または外部の教員と連携して、より多くの英語の科目を開講する。また、研究指導を担う教員を増やす。
達成指標		英語による講義・研究指導対応教員数
年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	A
	理由	上記のように英語による講義は安定的に開講できており、また、2名の教員が初めてIIST 留学生を受け入れるなど研究指導対応教員体制の充実は着実に進展している。
	改善策	さらに英語による講義、研究指導対応教員を増加させる。
評価基準		学生支援
中期目標		学内外の奨学金、学内 TA、RA などの経済支援、留学生のニーズにあったキャリア支援を充実させる。
年度目標		学内外の奨学金に関する情報を積極的に提供する。前年度より実施している修了後進路調査・進路希望調査を充実させ、進学・就職に関するより多くの情報とアドバイスを提供する。
達成指標		進学・就職率
年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	A
	理由	修了後進路調査・進路希望調査、新入生（在学生）と修了生との情報交換も行われている。在校生アンケートも行われている。
	改善策	意見交換会やアンケート調査をもとに、キャリアセンターと連携する。進学相談会を活発化する。
評価基準		社会貢献・社会連携
中期目標		研究成果のグローバルな発信及び優れたグローバル人材を輩出することにより社会貢献を果たす。
年度目標		教育内容・研究指導を充実させ優れたグローバル人材を輩出する。
達成指標		刊行・発表論文数、学会での受賞数、博士進学数、社会のグローバル化を担う人材輩出数
年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	A
	理由	上記のようにジャーナル5件を含む公表論文数22件、学会表彰4件など研究成果は高水準で、優れたグローバル人材を輩出し続けている。
	改善策	グローバルな発信など社会貢献を継続する。
【重点目標】 研究能力レベルの高い学生を恒常的に確保する、教育内容・研究指導を充実させ優れた人材を輩出する 【目標を達成するための施策等】 ・引き続き様々なオンライン日本留学セミナーに参加し、海外での広報活動を行う。また、定期的に海外の大学を訪問し、IIST の影響力を高める。さらに、海外の大学との間で MOU の締結を試み、優秀な学生を IIST へ推薦できるような仕組みについても検討する。 ・海外の一流の研究者と共同でオンライン・オフラインのセミナー・ワークショップ等の実施する。 ・ジャーナル論文・査読付き国際会議等学外発表を推奨し、博士進学への動機付けを行う。		

【年度目標達成状況総括】

教員・事務部門の協働により、高レベルな学生の受け入れ、受け入れ学生の教育・研究成果の充実、修了学生の進路、国際貢献など多方面で十分に年度目標を達成した。

教育課程・学習成果【教育課程・教育内容に関すること】の年度目標に設定したとおり、「大規模言語モデルを用いた生成型 AI」を新規に開講し、人工知能に興味関心のある多くの学生が履修した。

IV. 2025 年度中期目標・年度目標

評価基準	教育課程・学習成果【教育課程・教育内容に関すること】
中期目標	既存の 6 つの横断的学びのフィールド (Global Information Systems, Ubiquitous Network and Communication Systems, Global Business Analysis and Planning, Media and Information Processing, Medical and Health Care System Design, Advanced Bioscience and Chemical Engineering) を見直し、留学生から学びの需要の高い内容を反映させたフィールドを明示的に設けるなど、再編を行う。
年度目標	AI および AI と他分野との融合に関する応用研究など、世界的に注目されている研究分野の動向を踏まえ、これらに関連する新たな科目の設置を検討する。
達成指標	AI および異分野連携に関する新規科目案の議論を行い、関連する招待講演も実施する。
評価基準	教育課程・学習成果【教育方法に関すること】
中期目標	IIST に認められた増コマを有効に活用し、英語科目を充実させる。
年度目標	継続して英語科目を充実させる。
達成指標	英語科目の授業数を増加させる。
評価基準	教育課程・学習成果【学習成果に関すること】
中期目標	学習成果を学術論文出版、国際会議研究発表などを通じて示す。
年度目標	継続して IIST 学生の発表論文リストを作成し、学習成果を評価する。また、IIST コロキウムとして IIST 学生の研究成果発表の機会を設ける。
達成指標	入学後の研究成果（ジャーナル論文、国際会議発表件数など）を定期的に記録・評価し、一定水準以上を維持する。
評価基準	学生の受け入れ
中期目標	研究能力レベルの高い学生を受け入れると共に定員を恒常的に確保する。
年度目標	定員を充足しつつ、ガイドラインに則った丁寧な応募前の事前マッチングを通じて優秀な学生を選抜し、学生の質の確保をめざす。
達成指標	定員充足率を安定的に確保する。
評価基準	教員・教員組織
中期目標	英語による講義・研究指導を担う教員の割合を増やす。
年度目標	IIST 担当の任期付き教員と他の IIST 教員との連携を強化し、受け入れ可能な留学生数の増加を図る。
達成指標	英語による研究指導が可能な教員数を確保する。受け入れた学生数を維持する。
評価基準	学生支援
中期目標	学内外の奨学金、学内 TA、RA などの経済支援、留学生のニーズにあったキャリア支援を充実させる。
年度目標	修了後進路調査・進路希望調査を充実させ、キャリアセンターと連携し組織的なキャリア支援の仕組みを検討する。
達成指標	進学・就職率を維持する。進学・就職の満足度を調査し、満足度を確保する。
評価基準	社会貢献・社会連携
中期目標	研究成果のグローバルな発信及び優れたグローバル人材を輩出することにより社会貢献を果たす。

年度目標	教育内容・研究指導を充実させ優れたグローバル人材を輩出する。
達成指標	発表論文数、学会での受賞数、博士進学数、社会のグローバル化を担う人材輩出数を増加させる。
【重点目標】 多様性と国際性を備えた高度人材を育成し、グローバル社会で活躍できる人材基盤の拡充を図る。 【目標を達成するための施策等】 ・海外での広報活動を継続的に実施するとともに、定期的に海外の大学を訪問し、IIST の認知度と影響力の向上を図る。 ・英語による研究指導体制のさらなる整備と、英語での論文執筆・プレゼンテーション能力向上のための指導プログラムを充実させる。 ・IIST の優秀な研究成果を積極的に国際的なプラットフォームで発信し、研究力の見える化とブランド力の強化を図る。 ・海外の著名な研究者との連携のもと、セミナーやワークショップを開催し、国際的な研究交流の促進を図る。	